

令和5年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月21日実施)	総合評価 (3月31日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①生徒一人ひとりの確かな学力の向上を図り、進路実現に向けた支援を推進する。</p> <p>②国際理解教育等を通して、生徒一人ひとりの自立に向けて、視野を広げ豊かな人間性と社会性を育成する。</p>	<p>①生徒の学力向上に資するために学習環境の整備を行う。また、生徒が主体的に学ぶ意欲を高めるとともに、生徒の深い学びの実現を図る。</p> <p>②姉妹校交流や留学生との交流などの教育活動を通して、生徒一人ひとりが主体的に取り組める機会を与え、その企画の推進に努める。</p>	<p>①(1)1・2学年で導入された一人一台端末を活用した学習活動、デジタル教材の活用を図り、ICT機器を用いた授業などの多様な学習機会の提供を図る。</p> <p>(2)ICTに関わる教員のスキルアップに努めるなど、教員の授業力の向上を図ることにより、生徒の深い学びと確かな学力の実現を図る。</p> <p>②生徒の主体的な取り組みとなるような国際交流の場を広げ、その環境を整える。</p>	<p>①(1)ICT機器を用いた授業展開を行った教員数が増加したか。</p> <p>生徒に学習意欲の向上が見られたかについて、授業評価のうちの自己評価の項目において2/3程度以上の生徒がプラスに評価したか。</p> <p>(2)研修等に参加した教員の数が増加したか。また、生徒による授業評価の向上に繋がったか。</p> <p>②生徒が主体的に取り組める場面や活動満足度がアンケートを通して上がったか。</p>	<p>①昨年度より一人一台端末が導入され、その活用のためのアプリケーション「ロイノート」も導入2年目となり、1・2学年を担当する多くの教員が有効活用できたことで、教員の授業力向上と生徒の授業への積極的な参加につながった。</p> <p>また、各教室に配備している大型モニターにAppleTVを導入し、効果的、効率的に授業が行われた。</p> <p>②水原外国語高校との姉妹校交流、グアム国際文化観光局交流を実施した。アンケート結果から、生徒にとって有意義な体験であったことが伺えた。また、4名の留学生が本校で学び、授業や部活動を通して生徒たちとの交流を図った。</p>	<p>①来年度、全学年で一人一台端末が導入されることから、より多くの職員への研修を実施して、さらなる授業力向上に努める。</p> <p>また、一人一台端末の導入が進むことから、学習支援Gや生徒支援G、教科情報等で連携し、生徒の情報リテラシーの向上を図る。</p> <p>②今後も生徒が主体的に取り組める環境を整え、国際理解教育の推進に努める。</p>	<p>①授業でのICT活用で情報や考えの共有化が迅速に行われ、知識が広がることは有効だと思う。</p> <p>その一方で情報リテラシーなどの教育が一層進められることも望む。</p> <p>②多くの生徒が興味関心を持つ国際理解教育について、多くの機会が設定され留学生を多く受け入れていることはとても良いことで、今後もぜひ継続してほしい。</p>	<p>①授業での一人一台端末を含めたICT活用はかなり進んできている。大型モニターにAppleTVを設置できたことでさらに活用度は高くなり、教員側の活用への意欲も高まった。また、情報リテラシーについて生徒の理解を深めるとともに、機会を見つけて教員が注意喚起を行うことが大切である。</p> <p>②国際交流に参加した生徒の満足度は高く、学校説明会でも国際交流に関心が高いことから、本校の取組が理解されていると考えられる。今後も継続して国際交流、国際理解教育を進めていく必要を感じる。しかし、希望者とはいえ費用の負担感は大きいと思われる。</p>	<p>①教科情報の授業でリテラシーに関して学習するだけでなく、日常の中で事あるごとに多くの教員が注意喚起を行う必要がある。そのために教員も正しい情報と知識を得るため、研修テーマに追加設定する等の検討が必要である。</p> <p>②オンラインによる交流などを積極的に取り入れたり、留学生との交流を広げたりと生徒が主体的に取り組める機会をつくる等の検討を継続していく。</p>
2 生徒指導・ 支援	<p>①生徒のさまざまな活動の主体性を尊重し、生徒に向き合って、リーダーシップを育成する。</p> <p>②生徒一人ひとりの個に応じた支援体制を定着させ</p>	<p>①生徒組織それぞれの自主的・主体的な運営を促すとともに責任を持たせ、有意義な活動と達成感の向上を目指して、適切な指導と助言を行う。</p> <p>②生徒のメンタル面での変化を早期にとらえ、適切か</p>	<p>①「持続可能な活動選択」と「健全な伝統継承」のバランスを図るとともに、生徒会本部、各種委員会等の運営方法を工夫しながら、生徒との打合せの場づくりを多く設定して意思疎通を図っていく。</p> <p>②生徒への声かけや学校生活アンケートを通し生徒の変化の早期発見に</p>	<p>①各種活動や行事において、生徒による総括や、生徒アンケートで活動満足度が上がったか。</p> <p>②生徒の情報交換や支援生徒に対する支援効果の評価などを行う教育相談コーデ</p>	<p>①概ね目標は達成された。昨年同様、行事準備の始動を早めたことで、生徒会執行部や実行委員等との打合せの場を多く確保することができ、体育祭は天候には恵まれなかったが、一部プログラムを修正した上で実施し、アンケート結果も好評であった。</p> <p>②教育相談の支援状況としてはSCに繋がった生徒は141(52)名で昨年度比の約2.9倍。</p>	<p>①特に体育祭は達成感も高いが、生徒にとっても負担は大きく、引き続き、行事規模の適正化及び持続可能な行事のあり方と伝統の継承とのバランスを考慮して、検討を続ける必要がある。</p> <p>②サポートドッグの課題として、従来からある生活アンケートと内容や実施時期の重複があるこ</p>	<p>①練習時間の長さ等の課題もあると思うが、授業と行事のバランスを取りながら、生徒が意欲的に取り組む行事を継続してほしい。</p> <p>②生徒個々の悩みや不安を相談する場を設定できていることは、安心して学校生</p>	<p>①生徒会行事は課題も多いが生徒が楽しみにしており、実施後の満足度も高い。実施に関して生徒の意向を大切にしながら練習時間や行事の内容について調整を行う必要がある。</p> <p>②教育相談コーディネーター会議の活用が進み、悩みや不安を抱える生徒に対して早期にチームで対応できた。SC</p>	<p>①生徒の行事に対する意欲を大切にしながら、自主的・主体的活動となるよう、意見交換を建設的に行う。</p> <p>②スクールサポートドッグと生活アンケートの実施時期・内容の見直しを行う。教育相談コーディネーターの負担感</p>

	視点	4年間の目標 (令和2年度策 定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月21日実施)	総合評価(3月31日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
	生徒指導・ 支援	る。	つ丁寧な対応 を行う。	努め、学年会やケ ース会議等を活用 してチームによる きめ細かな支援を 行う。	ィネーター会議を定 期的に実施できた か。	SSW(本年度より設置)に 繋げた生徒は53(45)名で あった。 ※共に()内はサポート ドックによるプッシュ型面 談数。	と、担任やコーディネ ーターに業務量が激増した こと、SCとSSWの勤 務日が異なり意見のすり 合わせ等が難しかったこ とがある。 従来実施アンケートとサ ポートドックの整理と、 職員の負担軽減について検 討が必要である。	活を送るうえで大切 だと思われる。今年 度からの新たな試み もうまく取り入れら れているようでよか った。	による教員研修により教員の 教育相談に対する意識や課題 のある生徒への対応の知識が 深まった。今後も増加が予想 されるので、どのような対応 を図るかが課題である。	軽減のために学年会を活用す る等、チームとしての関わり についても検討していく。
3	進路指導・ 支援	キャリア教育 を充実させ、 目的意識を持 って学習に取 り組む姿勢を 育む。	生徒自身が希 望する進路に ついて考え判 断する力を育 めるよう、3 年間を通して 必要かつ適切 な支援を行 う。	3か年を通じてキ ャリア教育ガイ ドブックの活用等、 適切なキャリア 教育を行う。 また、自習室内 の環境を整備 する。	説明会やガイダ ンス、体験の機 会、各種試験を 有機的に結び 付けて実践す ることができた か。 自習室の生徒の 利用状況が適 切であったか。	有益な情報を適切 な時期に提供 できるよう行事 の開催時期を 一部変更し、各 種ガイダンス等 を実施した。3 学年において、 総合型選抜や 学校推薦型選 抜の希望者 に対し、細か な指導を行っ た。 自習室を今年 度から開設し た。使用状況 を見ながら生 徒が利用しや すいように運 営を行っ	生徒自身が個々 のガイダンス 等の内容を自 分の進路希望 実現へ結び付 け、さらに活 用できるよう、 各学年におけ る進路の取り 組みを3か年 見通して、時 期や内容を整 理し生徒に提 供する。	自習室の活用が 進んでいるよ うでよかった。 入試制度が年々 多様化してい るので、それ に対応した指 導をお願いし たい。	3年間を通じて 進路について 考え、知識を つけるための 説明会を適切 な時期に開催 できた。また、 多様な入試制 度などの新し い情報も日々 更新して提供 することができ た。自習室の 活用も進んで いる。さらに 多様化する入 試制度などの 情報を適切に 提供するとと もに、個々に 応じた丁寧な 指導が求めら れる。	キャリア教育グ ループから3 学年団への情 報共有を密に し、情報量に 偏りがないう にするととも に、個に対して 丁寧な指導を 引き続き行っ ていく。
4	地域等との協 働	地域などの教 育力の活用や 地域等への貢 献活動を通し て、地域に信 頼される学校 づくりを推進 する。	地域に貢献で きる教育活動 の充実を図 る。	防災訓練や地域 理解活動を通 じて、地域と の交流を深め 、地域防災に ついて連携を さらに深める。	防災教育におい て具体的な地 域理解及び体 制づくりがで きたか。 地域と協力し た防災活動の 取り組み回数 が増えたか。	1学年の4月に、津波のシ ミュレーション トレーニング やDIG研修を 実施したり、 近隣の広域避 難場所及び避 難経路の確認 をしたりなど 防災について の意識を高め るとともに地 域理解に努 めた。 また避難訓練 や防災委員会 による喫食訓 練などを実施 した。	地域と協力し た防災活動の 取り組みにつ いて、今年度 実施できなかつ たところがあ るので、次年 度への大きな 課題として、 地域との連携 を深めつつ防 災交流が図れ るように努 める。	コロナ禍が解 消されつつあ り、地域行事 への参加も増 えてきてあり がたい。地域 とのコミュニ ケーションが 防災力の強化 につながると 考えているの で今後も地域 との交流を深 めてほしい。	防災訓練や地 域理解活動を 実践し、地域 の行事に参加 し交流するこ とで、地域へ の理解を深め ることができ た。ただ一部 の部活動や生 徒のみが行事 に参加をして いるので、学 校全体が地域 と交流する場 を設定できると よい。	地域住民と合 同で防災訓練 を行う等、学 校としてどの よう地域に貢 献できるかにつ いて、引き続 き検討をして いく。
5	学校管理 学校運営	①安心・安全 な教育環境の 整備に努める など、教育課 題に対して積 極的に取り組 むとともに、 学校の取り組 みの情報発信 に努める。 ②教員の働き 方改革を推進 し、組織的な 学校運営と校 務の効率化を 図る。	①継続した生 徒の学習活動 の整備・充実 に努めるとと もに、社会で 必要とされる 学校となるよ う職員・生徒 の意識向上を 図る。 ②働きやすい 職場づくりの ための職場環 境を整える。	①校内美化の活 動及びチェック 体制を整える とともに、環 境美化に対す る職員・生徒 の意識をため るための仕組 みを整える。 ②業務に対する ストレスが軽 減されるよう 、業務分担・ 内容の見直し を行う。	①生徒アンケ ートで校内美 化に対する意 識や取組が向 上したか。 ②ストレスチ ェックで高ス トレス者の割 合が昨年に比 べて1割以上 減少したか。	①計画的に大 掃除を実施し 、産業廃棄物 廃棄のため のコンテナを 設置するな ど、校内美化 活動を積極 的に行った。 廊下の清掃を 強化するため 次年度に向け てレンタルモ ップの増設を 検討してい る。 ②業務の軽減 を意識して校 務を行う等、 昨年度よりも 高ストレス者 の割合は9% 減ったが、目 標の1割には 届かなかった。	①生徒へのア ンケートにつ いて、継続的 に実施するこ とができなかつ たので、次年 度は学期ごと に取るように 計画し、校内 美化に向けて 意識付けの強 化を図る。 ②全体の業務 量が減少し ても、特定の 人に対して業 務が集中する 状況があるた め、内容を整 理するととも に分担の見直 しを進める必 要がある。	①清掃の時間 を時間割に組 込んだらよい のではないか。 校内美化につ いてはPTAや 同窓会も協力 できることは 行いたい。 ②電話による 欠席連絡でな くメールやマ チコミを利用 して教員の負 担を減らす方 法もあるのは ないか。	①コロナ禍以 降、教室内に ゴミ箱を置か ず、持ち帰り としているこ とが当たり前 となり校内美 化への意識が 高まっている 。しかし、強 風や飛砂によ り清掃が大変 である。 ②働き方改革 ののっとり、 必要のない業 務を改善して いこうと意識 できたことは よかった。今 後はさらに業 務について見 直しを図る必 要がある。	①校内美化へ の意識の高ま りを清掃活動 につなげるた めに、計画的 な取り組みと 備品等の管理 を徹底する。 ②引き続き、 業務内容や量 、分担の見直 し等について 検討していく。